

# 運動部活動への関わり方が三重大学生に及ぼす影響について

大隈 節子

About the influence how to concern to athletic club activities exerts on a student of Mie University.

Setsuko Okuma\*

## 要 旨

本研究では、運動部活動への関わり方が三重大学生に及ぼす影響について明らかにするために、三重大学の運動部に所属する学生へのアンケート調査を実施した上で数量的な分析を行った。

分析の結果、本学の運動部に所属する学生の7割以上がポジティブな活動を行っており、5～6割程度の学生が現在の運動部活動が本学の教育目標である「4つの力」の向上に影響を及ぼすと回答していることがわかった。また、男性においては運動部活動への満足度によって精神的・身体的健康、および「4つの力」のうちの「感じる力」と「生きる力」に有意な差が見られた。さらに運動部活動への継続意欲については「4つの力」ごとに設定された質問に対し、1つ以上（合計5項目）に有意な差が見られた。このことから、男性は運動部活動への満足感だけでなく、今後も継続する意欲があるかによって「4つの力」に多くの影響があることが明らかになった。一方、女性においては運動部活動への積極的参加度のみにおいて有意な差が見られたことから、単に運動部活動へ参加するだけでなく、より積極的にかかわっているかどうか「4つの力」のうちの「感じる力」に影響することが明らかになった。

キーワード：大学生の運動部活動、運動部活動満足度、積極的参加度、継続意欲、心身の健康、4つの力

## 1. はじめに

スポーツ基本法（2011）の前文において「スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等のための身体活動であり今日、国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠のものである」と記されている。さらに「スポーツは、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」と謳われている。このことから、現代社会の青少年にとってスポーツは身体的・精神的・社会的に重要な役割を果たしていることがわかる。

これまでに行われた研究の成果により、大学生の運動部活動が大学生に対しさまざまな影響を及ぼしていることが明らかになっている（1998, 2016ほか）。

その中でも杉山（2004）は、大学運動部に所属している大学生を対象にスポーツ場面における社会的スキルと日常場面において望まれる社会的行動との関連性

の検討を行い、スポーツ場面において他者の考えや気持ちを読み取ることができる者は日常場面においても相手の気持ちを理解して相手のためになる行動を行っていること、さらにスポーツ場面において自分の考えや気持ちを他者に伝えることが得意な者は日常場面においても適切な社会的行動を積極的に行うことができるなど、社会的側面へのスポーツの影響についても明らかにしている。

またスポーツが大学生のライフスキルに及ぼす影響に関する研究（2012）においても、文化系の課外活動団体所属者、体育系課外活動団体所属者、無所属者の3群で比較したところ、無所属者、文科系活動に比べて、体育系課外活動団体所属者の方が有意にライフスキル得点が高い結果を示したことが明らかになっており、さらに体育系運動部の中でも種目のタイプによってライフスキルへの影響の在り様が異なることなどの詳細な検討が行われている。

このように、大学生の運動部活動はポジティブな影響を及ぼすことが明らかになっているが、その一方で大学生の身体的・精神的健康に対する負の影響を及ぼす側面があることもこれまでに看過できない問題と

\* 三重大学大学院教育学研究科

して明らかになっている。

そこで本研究では、これまで本学の運動部活動については学生にどのような影響を及ぼしているのかについて詳細な検討が行われていないことから、その足掛かりとして運動部に所属する学生を対象としたアンケート調査を実施することにした。

本研究を行うにあたり、予め今回の調査が教育学部保健体育コースの選択必修授業である体育社会学演習の授業の一環として履修学生を中心に実施したものであることを明記しておく。最終的な調査内容については授業担当教員である筆者がチェックした上で最終決定を行った。調査の項目は本学運動部の活動状況や部活動の満足度・積極的参加度・継続意欲度、そして精神的・精神的健康との関連性や運動部活動が大学生活に及ぼす影響について合計5パート81の質問項目から構成した。

本研究では、運動部活動による大学生活への影響について授業で取り扱った内容とは重複しない観点から分析を進めた。具体的には、運動部活動へのかかわり方と心身への影響、さらに三重大学が全学共通の基本的な教育目標として掲げている「4つの力」に及ぼす影響について明らかにすることを目的とした。

## 2. 方法

調査対象は、2020年12月の時点で三重大学運動部活動に所属する学生を対象にアンケート調査用紙を配付した。そのうち、回収できた運動部15団体、合計140名の回答をもとに分析を実施した。今回の調査期間はちょうど新型コロナによる影響を受けた時期であったが、調査用紙に「新型コロナによる影響がある以前の運動部活動の状況について回答してください」と追記し、新型コロナによる影響については検討に含めない前提で調査を行った。

## 3. 結果および考察

### 1) 基礎集計

本研究の調査対象者の性別、学年別の内訳は以下の通りである。

	人数	パーセント
男性	93	66.4
女性	47	33.6
合計	140	100.0

表2 回答者の学年

	人数	パーセント
1年	40	28.6
2年	58	41.4
3年	31	22.1
4年	11	7.9
合計	140	100.0

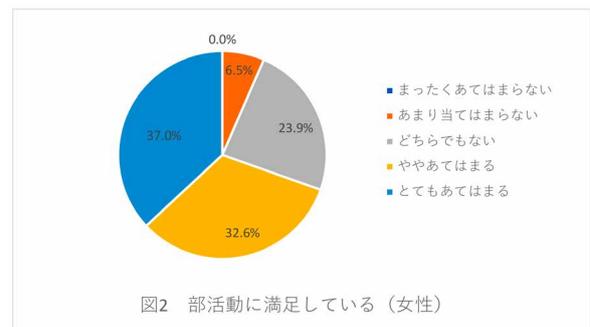
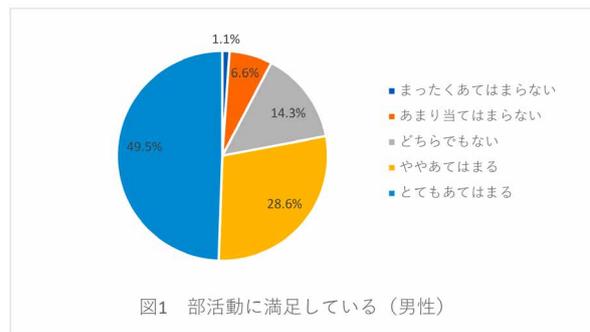
### 2) 本学部活動の現状について

#### ①運動部への所属率

調査を実施した2020年度の本学体育系の運動部数は組織が異なる医学部を除いて57団体であり、所属者数男性が1,189名、女性が514名の合計3,481名（2020年6月時点）であった。医学部を除く2020年度の4学部学生数の合計が4,869名、うち男性が3,055名、女性が1,814名（2020年5月時点）であったことから、運動部活動所属率は、男性が34.2%、女性が28.3%であった。

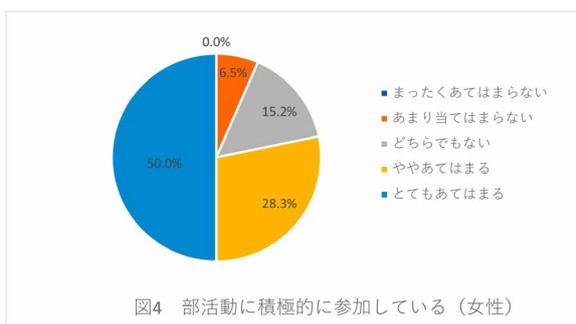
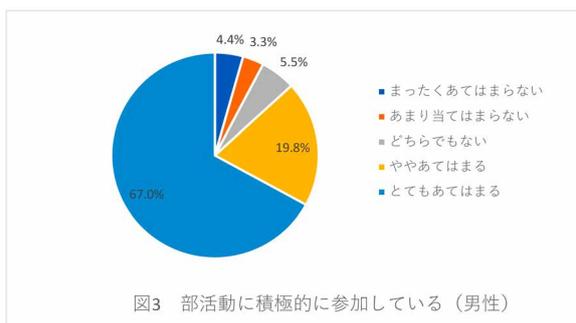
#### ②部活動への満足度

男女別の現在の部活動への満足度に関する回答は以下の通りである。男性においては49.5%が「とてもあてはまる」と回答し、78.0%が「ややあてはまる」+「とてもあてはまる」を合計した満足傾向にあることが明らかになった。女性については男性より割合は低いものの「とてもあてはまる」が37.0%、「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を合計した満足群は69.6%と約7割が満足傾向にあることがわかる。



### ③部活動への積極的参加度

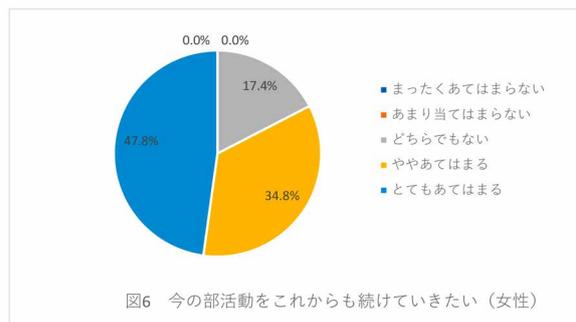
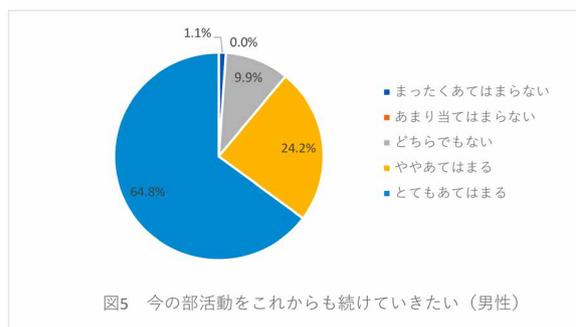
男女別の部活動への積極的なかかわりに関する回答は以下の通りである。男性においては67.0%が「とてもあてはまる」と回答し、さらに「ややあてはまる」+「とてもあてはまる」を合わせると86.8%が部活動に積極的に参加していることがわかる。一方女性は、「とてもあてはまる」の回答率は50.0%と男性との比較においては低い割合となっているが、「とてもあてはまる」+「とてもあてはまる」を合わせると78.3%の女子学生が部活動に積極的に参加している傾向にあることがわかる。



### ④部活動の継続意欲度

男女別の今後の部活動継続意欲に関する回答は以下の通りである。男性においては64.8%が「とてもあてはまる」と回答し、また89.0%と高い割合で「ややあてはまる」+「とてもあてはまる」と回答している。女性においても47.8%が「とてもあてはまる」と回答し、「ややあてはまる」+「とてもあてはまる」については82.6%と男性の割合より少ないものの8割以上の女子学生が現在の部活動に対して継続意欲を持っていることがわかる。

以上の点から、本学運動部所属者においては、運動部活動満足度、積極的参加度、継続意欲度それぞれにおいて7割以上が「あてはまる」と回答し、「まったくあてはまらない」「あまりあてはまらない」を選択した学生の割合は1割以下であることから、多くの学生がポジティブな活動を行っていることが明らかになった。



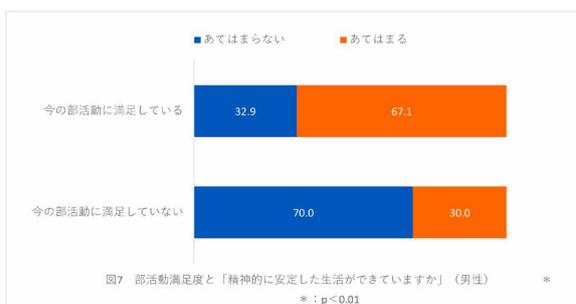
### ⑤性別による運動部活動へのかかわり方の比較

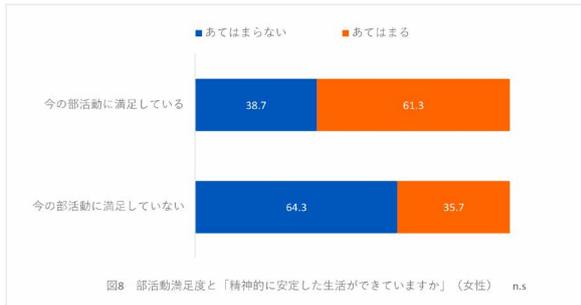
上記の運動部活動へのかかわりを示す3項目（部活動満足度・積極的参加度・継続意欲度）についてそれぞれ男女によるカイ二乗検定を行ったところ、すべての項目において有意な差はみられなかった。

## 3) 部活動への満足度と心身の健康について

### ①精神的健康度

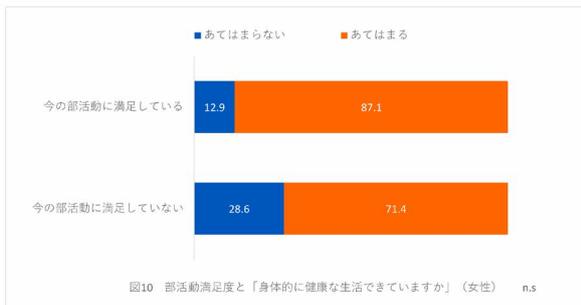
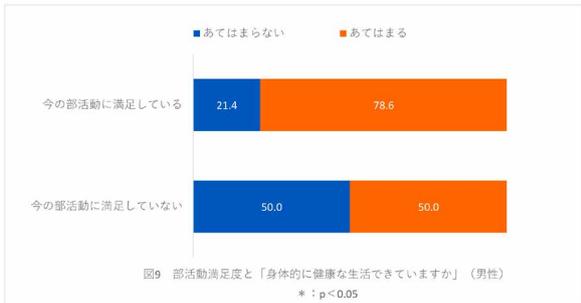
運動部活動への満足度と精神的健康との関連性についてみると男性において1%水準で有意な差が見られた。図7の通り、現在の部活動に満足傾向にある学生の67.1%が「精神的に安定した生活ができています」と回答している一方で、現在の部活動に対し満足傾向にない学生は、30.0%と低い割合に留まっている。一方、女性においても男性と同様に部活動に満足傾向にある学生の方が「精神的に安定した生活ができています」と回答している割合が多かったが、カイ二乗検定を行った結果、有意差が認められなかった。





②身体的健康度

運動部活動への満足度と身体的健康度との関連についてみると、男性のみに有意な差がみられた。満足傾向にある学生の67.1%が身体的に健康な生活ができていると回答している一方で、満足傾向にない学生は30.0%に留まっていることがわかる。一方、女性においては部活動への満足度によって身体的健康度に有意な差は認められなかった。部活動への満足度に関係なく、女性は数値的に男性に比べて身体的に健康な生活ができていると感じている割合が高いことがわかる。



4) 性別による「4つの力」への影響の比較

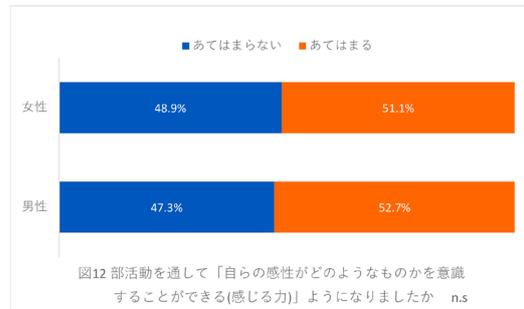
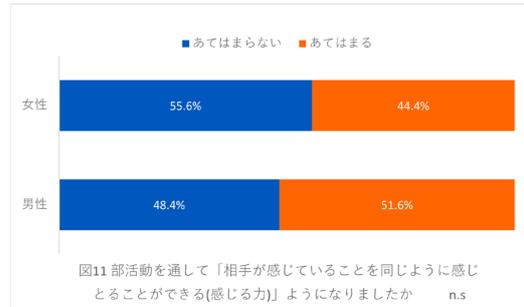
本学は全学共通の基本的な教育目標として「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」とそれらを総合した「生きる力」から成る「4つの力」の育成を掲げている。ここでは、運動部活動による「4つの力」への影響が性別によって異なるのかについて検討する。

今回使用した質問項目は、2020年度に本学が教育改善ならびに大学4年間の「4つの力」の習得達成度を確認することを目的として実施した学生へのアンケ

ート調査項目(65項目)の中から、8項目(4つの力×各2項目)を選択した。また、各質問文については「部活動を通して〇〇ができるようになりましたか」というように、部活動による4つの力への影響がわかるように一部変更して実施した。

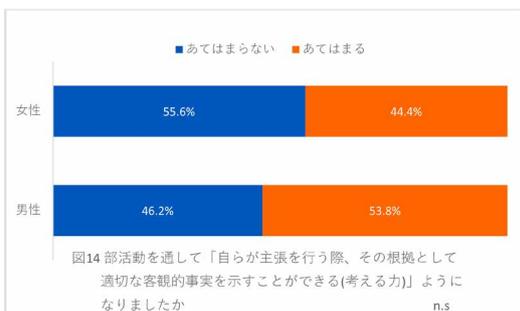
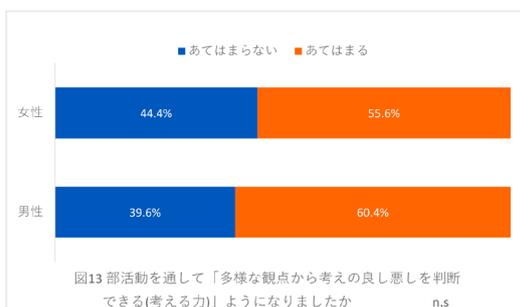
① 「感じる力」について

今回「感じる力」の項目として設定をしたのは「部活動を通して相手を感じていることを同じように感じることができるようになりましたか」と「部活動を通して「自らの感性がどのようなものを意識することができるようになりましたか」の2項目であった。男女別に数値を比較すると、若干男性の方が「あてはまる」と回答した割合が多いが、カイ二乗検定を行った結果からは性別によって有意な差は見られず、男女ともに5割程度が「感じる力」の2項目について「あてはまる」と回答していることがわかった。



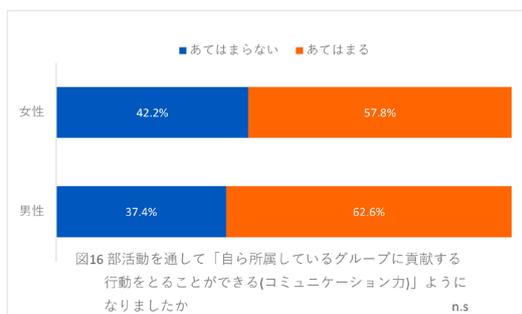
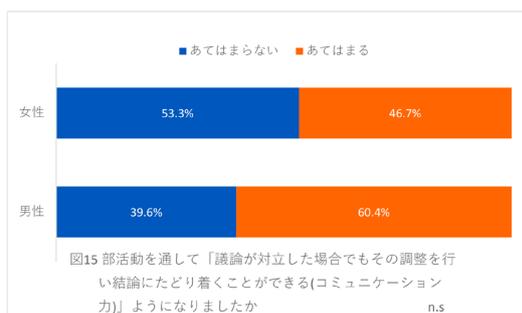
② 「考える力」について

「考える力」との関連をみるために設定をした2項目は「部活動を通して「多様な観点から考えの良し悪しを判断できるようになりましたか」と「部活動を通して自らが主張を行う際、その根拠として適切な客観的事実を示すことができるようになりましたか」であった。男女別にそれぞれの数値を見ると、2項目ともに「あてはまる」と回答した割合は男性の方が高いことがわかる。しかし、カイ二乗検定を行った結果、性別による有意な差はみられなかったことから、「考える力」についても男女ともに5割前後が「あてはまる」と回答していることがわかった。



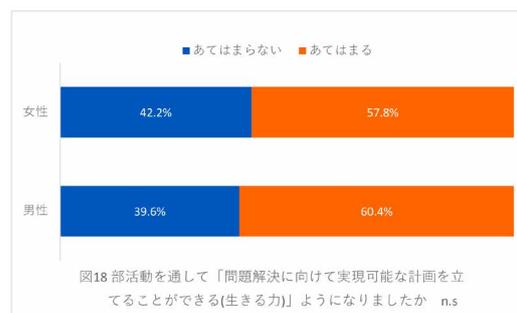
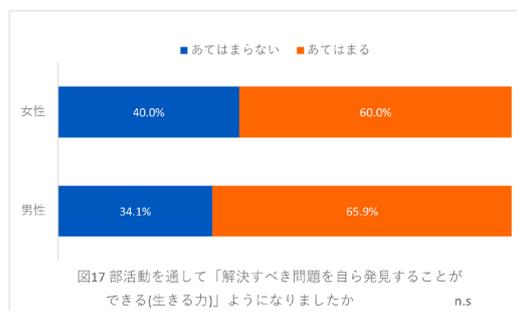
### ③ 「コミュニケーション力」について

コミュニケーション力を測定する項目として設定をした2項目は「議論が対立した場合でもその調整を行い、結論にたどり着くことができるようになりましたか」と「自ら所属しているグループに貢献する行動をとることができるようになりましたか」であった。これらの項目についても「あてはまる」と回答した割合は男性の方が多いものの、カイ二乗検定を行ったところ、男女によって有意な差はみられなかった。「コミュニケーション力」についても男女ともに5割程度が「あてはまる」と回答していることがわかった。



### ④ 「生きる力」について

「生きる力」を測定する項目として設定をした2項目は、「解決すべき問題を自ら発見することができるようになりましたか」と「問題解決に向けて実現可能な計画を立てることができるようになりましたか」であった。これらの項目についてカイ二乗検定を行ったところ、男女によって有意な差はみられなかった。「生きる力」については男女とも6割程度が「あてはまる」と回答していることがわかった。



### 5) 部活動へのかかわり方と三重大学「4つの力」との関連性について

上記の結果をもとに、ここでは運動部活動へのかかわり方3項目と「4つの力」との関連性について性別ごとに検討をおこなった。

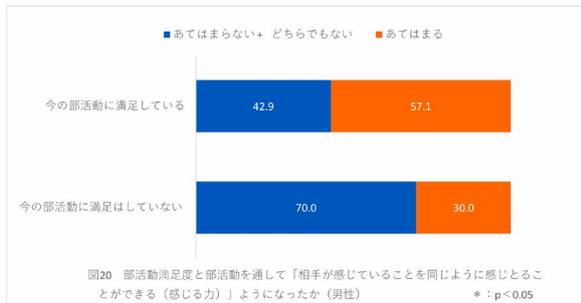
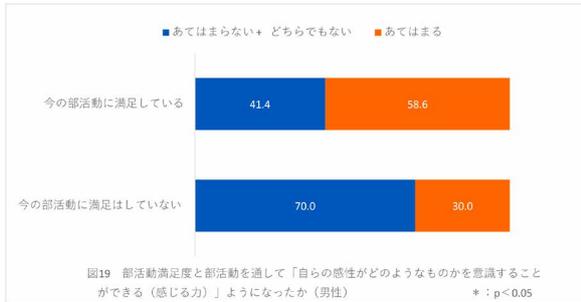
#### ① 部活動満足度と「4つの力」との関連性

男女別に運動部活動へのかかわり方と「4つの力」を測定する8項目との関連性について検討したところ男性のみ3項目で有意な差がみられ、女性についてはすべての項目で有意な差がみられなかった。男性において有意な差がみられた項目のうちの2つは「感じる力」に関する項目であり5%水準で有意な差が見られた。

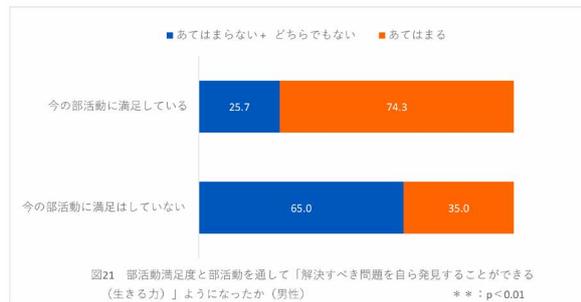
「部活動を通して相手を感じていることを同じように感じるできるようになりましたか」の項目については、部活動に満足していない群の30.0%が「あてはまる」と回答した一方で、満足群は57.1%と半数以上の学生が部活動を通して相手を感じていることを同じように感じるようになったと回答している。

また、「自らの感性がどのようなものを意識する

ことができる」の項目については、今の部活動に満足していない群において「あてはまる」と回答した割合が30.0%である一方で、満足傾向にある群においては58.6%が自らの感性がどのようなものを意識することができるようになったと回答している。



3つ目に有意な差がみられたのは「生きる力」に関する項目「解決すべき問題を自ら発見することができる」であり、1%水準で有意な差が見られた。結果をみると、この項目も他の2つと同様に今の部活動に満足はしていない群においては「あてはまる」と回答した割合が30.0%に留まっている一方で、今の部活動に満足している群の方は74.3%と高い割合で「あてはまる」と回答していることがわかる。



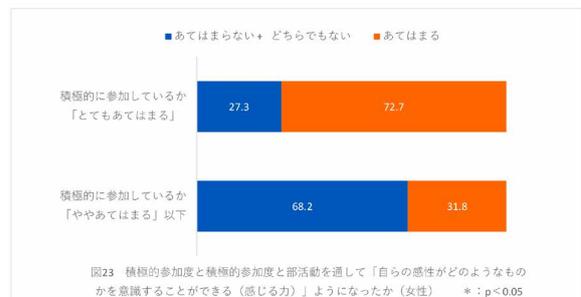
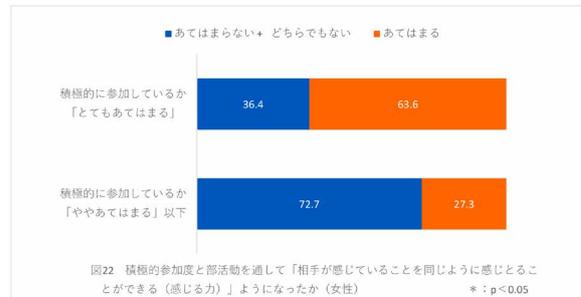
### ②積極的参加度と「4つの力」との関連性

部活動への積極的参加度と「4つの力」に関する8項目との関連性について、「あてはまらない+どちらでもない」を併せた群と「あてはまる群」の2群間でカイ二乗検定をおこなったところ、ほとんどの項目において、各セルの期待度数5未満のケースが20.0%

を超えた数値となり正確な検定結果が得られなかった。そのため、独立変数である積極的参加度の2群の分け方を「あてはまらない+ややあてはまらない+どちらでもない+ややあてはまる」を一つの群としてまとめ、「とてもあてはまる群」との間でカイ二乗検定を行った。結果、女性のみにおいて2項目に有意な差がみられ、男性においては8項目すべてにおいて有意な差はみられなかった。また、女性において有意な差が見られた項目はどちらも「感じる力」に関する項目であった。

「相手が感じていることを同じように感じることができる」の項目は5%水準で有意な差がみられた。部活動に積極的に参加しているかの質問に対し、「とてもあてはまる」と回答した群の6割以上が「あてはまる」と回答した一方で、それ以外の回答でまとめた群（「まったくあてはまらない」+「あまりあてはまらない」+「どちらでもない」+「ややあてはまる」の4群の合計）においては3割弱に留まっていることがわかる。

また、「部活動を通して自らの感性がどのようなものを意識することができるようになりましたか」の項目についても部活動に積極的に参加しているかの質問に対し「とてもあてはまる」と回答した群の7割以上が「あてはまる」と回答している一方で、それ以外の回答でまとめた群においては3割に留まっていることが明らかになった。



### ③継続意欲度と「4つの力」との関連性

部活動の継続意欲度と「4つの力」に関する8項目との関連性についてもほとんどの項目において各セルの期待度数5未満のケースが20.0%を超えた数値で

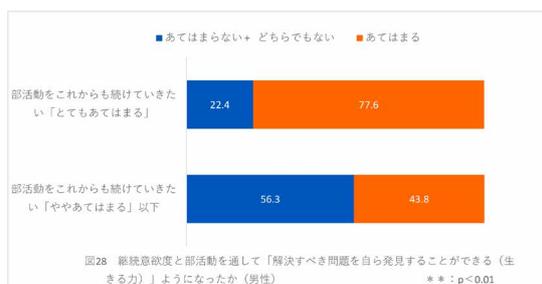
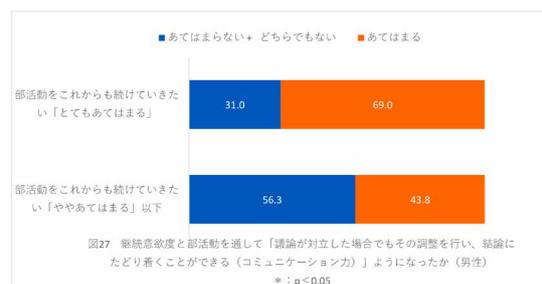
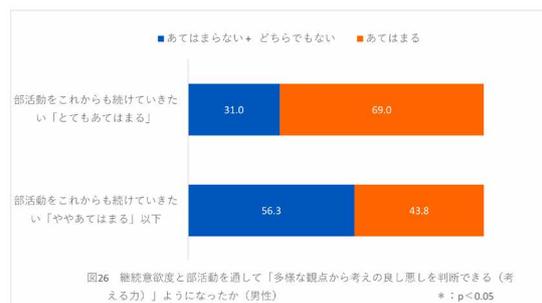
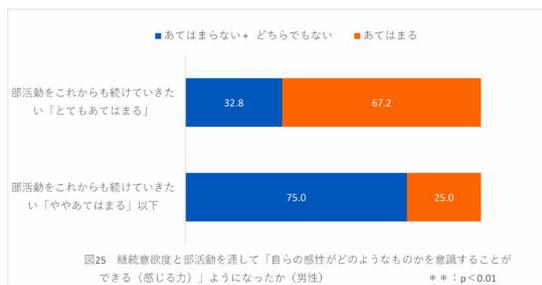
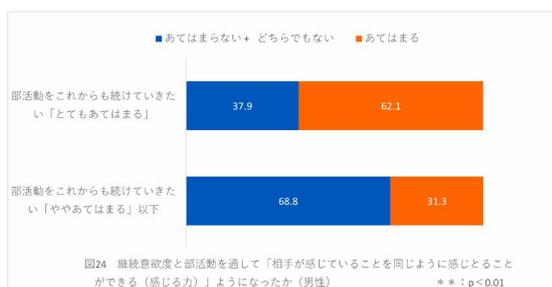
検討ができなかった為、上記の積極的参加度と同様に「あてはまらない+ややあてはまらない+どちらでもない+ややあてはまる」を一つの群としてまとめ、「とてもあてはまる群」との間でカイ二乗検定を行った。結果、男性においてのみ5項目で有意な差がみられた。女性については8項目すべてにおいて有意な差はみられなかった。

「感じる力」については、「部活動を通して相手が感じていることを同じように感じることができるようになりましたか」「部活動を通して自らの感性がどのようなものを意識することができるようになりましたか」の2項目で1%水準の有意な差がみられ、継続意欲に「とてもあてはまる」と回答した群の7割程度が「感じる力」への影響があると回答した一方でそれ以外をまとめた群においては3割程度に留まっていることが明らかになった。

「考える力」については、「多様な観点から考えの良し悪しを判断できる」の1項目において5%水準で有意な差がみられた。この項目も他と同様に継続意欲に「とてもあてはまる」と回答した群の7割程度が「考える力」への影響があると回答した一方でそれ以外をまとめた群においては4割程度に留まっていることが明らかになった。

「コミュニケーション力」については1項目で5%水準の有意な差が見られた。「部活動を通して議論が対立した場合でもその調整を行い、結論にたどり着くことができるようになりましたか」の質問について、継続意欲に「とてもあてはまる」と回答した群の7割程度が「コミュニケーション力」への影響があると回答した一方で、それ以外をまとめた群においては4割程度に留まっていることが明らかになった。

「生きる力」については、1項目で1%水準の有意な差が見られた。「部活動を通して問題解決に向けて実現可能な計画を立てることができるようになりましたか」の質問に対し、継続意欲に「とてもあてはまる」と回答した群の8割弱が「生きる力」への影響があると回答した一方でそれ以外をまとめた群においては4割程度に留まっていることが明らかになった。



#### 4. まとめ

本研究は、運動部活動が三重大学生に及ぼす影響について2020年度に実施したアンケート調査の結果をもとに検討した。その結果、明らかになった点は以下の通りである。

- 1) 2020年度の運動部活動所属率は、男性が34.2%、女性が28.3%であった。
- 2) 運動部活動の満足度について男性の78.0%、女性の69.6%が満足傾向にあった。
- 3) 運動部活動への積極的度について、男性86.8%、女性の78.3%が部活動に積極的に参加しているこ

とがわかった。

- 4) 運動部活動への継続意欲度について男性の89.0%、女性の82.6%が現在の部活動に対して継続意欲を持っていることがわかった。
- 5) 運動部活動への満足度と心身の健康との関連について、男性にのみ運動部活動満足度群の方が有意に精神的、身体的両面について健康である割合が高いことが明らかになった。
- 6) 運動部に所属する5~6割程度の学生が「4つの力」に関する「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、「生きる力」の8項目すべてにおいて運動部活動による影響があると回答しており、男女による有意差がないことが明らかになった。
- 8) 運動部活動への満足度と「4つの力」との間において、男性にのみ「感じる力」の2項目と、「生きる力」の1項目について満足傾向にある群の割合が高いことが明らかになった。
- 9) 運動部活動への積極的参加度と「4つの力」との間において、女性にのみ「感じる力」の2項目について満足傾向にある群の割合が高いことが明らかになった。
- 10) 運動部活動への継続意欲度と「4つの力」との間において、男性にのみ5つの項目（「感じる力」2項目、「考える力」1項目、「コミュニケーション力」1項目、「生きる力」1項目）について有意な差みられ、継続意欲の高い群において割合が高いことが明らかになった。

これらの結果から運動部活動の関わり方により三重大学生に及ぼす影響が異なることが明らかになった。特に男性においては運動部活動への満足度による影響が見て取れると共に、今後も継続する意欲があるかどうか「4つの力」に多くの影響を及ぼすことがわかった。

また、女性においては部活動へ参加するかどうかだけでなく、より積極的に参加しているかどうかによって「4つの力」の中の「感じる力」に影響を及ぼすことが明らかになった。

## 参考・引用文献

- 上野耕平, 中込四郎 (1998) 運動部活動への参加によるライフスキル獲得に関する研究 体育学研究, 43 (1), 33-42.
- 杉山佳生 (2004) 競技社会的スキル及びスポーツにおける個人・社会志向性と日常場面での向社会的行動との関係 健康科学, 26, 41-48.
- 文部科学省 HP (2011), スポーツ基本法前文

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/kihonhou/attach/1307658.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/kihonhou/attach/1307658.htm)

平井博志, 木内敦詞, 中村友浩, 浦井良太郎 (2012) ,大学期における課外活動の種類とライフスキルとの関係 大学体育, 9, 117-125.

中原(権藤) 雄一, 角田憲治, 藤本敏彦, 永松俊 (2016), 大学生における運動部活動参加の有無による 精神的健康度の相違 体力研究, 114, 42-46